

後期 学校評価 結果報告

京都市立美豆小学校

校長 榛葉正好

Tel 631-7161

2月に実施しました「学校アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。今回は、参観や普段の様子、お子達から聞かれていることから評価していただき、前期と比較してお知らせするようにしました。昨年度と比べて、お答えいただいた方は倍増し、評価もいい傾向になってきているのがわかります。

「教職員」「保護者」「児童」の共通項目

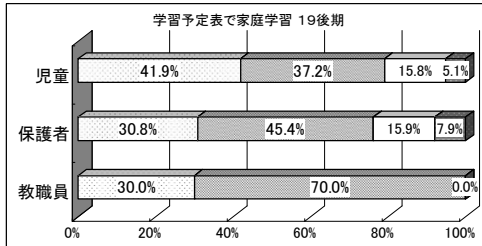
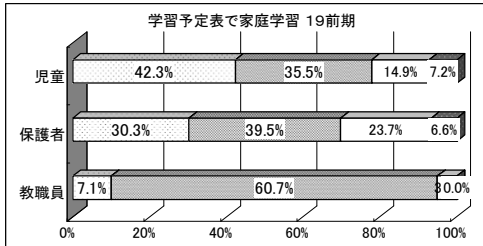
1. 学習予定表をもとに宿題など、進んで学習をしている。(教員;予定表の充実)
2. 人や自分、物を大切にしている。(教職員;差別・偏見に対する意識向上)
3. いじめ・仲間外れのない学級(教職員;連携を取り、早い対応ができる)
4. 学校は楽しい。(教員;子どもが主体的に活動する授業)
5. 学校と家庭の連携
6. 安全を守る力(教職員;学校安全に気を張っている)

回答数
保護者 332名、児童 468名、教職員 28名

- 各グラフの左より、
「A:よくあてはまる」
「B:概ねあてはまる」
「C:あまりあてはまらない」
「D:全くあてはまらない」

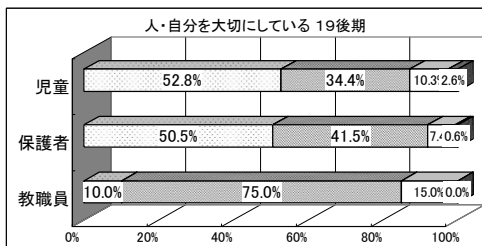
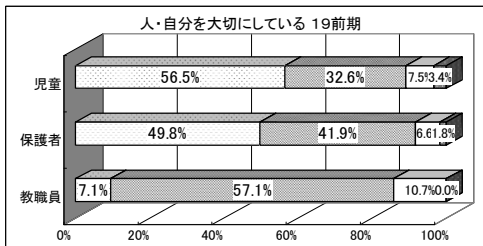
前期

後期



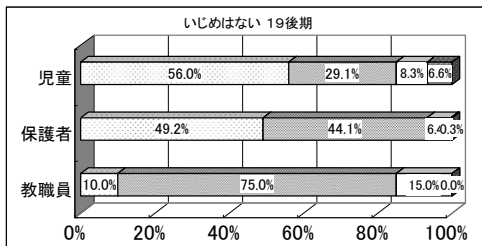
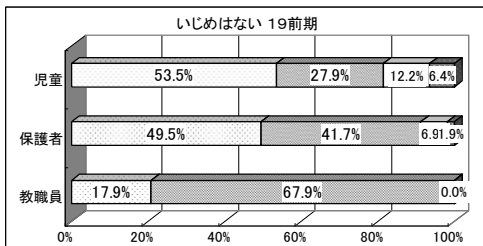
1. 学習予定表をもとに宿題など、進んで学習をしている。(教員;予定表の充実)

前期と比較して、A;「よくあてはまる」とB;「概ねあてはまる」の合計が、微増している。とりわけ、教職員は児童が「学習予定表」を参考に、家庭学習に進んで取り組めるように改善を加え、充実を図っている。
しかし、児童と保護者では、C「あまりあてはまらない」が15パーセントを越えている。「学習予定表」は、学習の予定が立てられるようにするとともに、その日の振り返りの材料としても有効である。授業で学習したことを、繰り返し学習しなければ、定着が図りにくい。宿題は当然のことだが、学習予定表をもとに予習・復習の習慣をつけるなど、自分の課題を知って、学習を進めることが求められる。



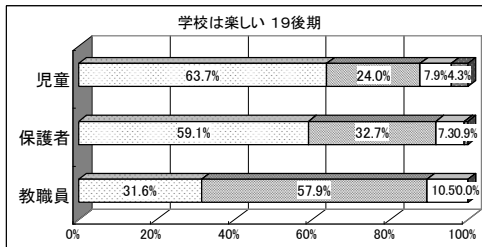
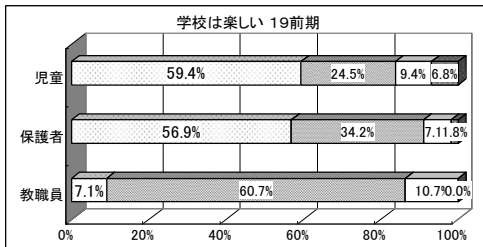
2. 人や自分、物を大切にしている。

三者共に8割以上が、大切にできていると答え、前期とほぼ変わらない結果が出ている。前期と同様に、多くは自尊感情が備わっていると考えられる。しかし、10パーセント余りの児童はそうでもないとしている。D:「全くあてはまらない」は1ポイントほど下がってはいるものの、C:「あまりあてはまらない」が微増しているところが気になる。
道徳の授業を充実させると共に、日常の学級経営を確かなものとして、気づきの指導を教職員集団で続けていきたい。



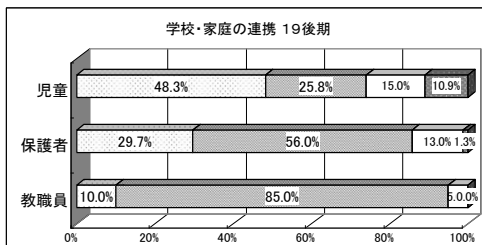
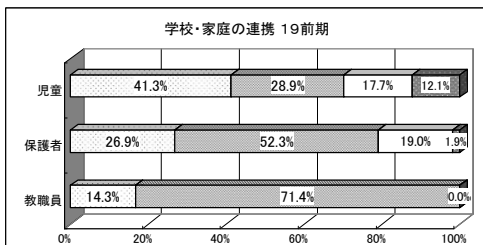
3. いじめ・仲間外れのない学級づくりができている。

「いじめ」の捉え方が、学年によっても差がある。まして、保護者と児童、教職員ではその捉えかたに大きな開きがあると考えられる。保護者と児童では、AとBの合計が、前期より3~4ポイント上昇している。「いじめ」は、どの空間でも起こりうると考え、常にアンテナを張って情報を得、より早い対応ができる教職員集団であり続けたい。
学校が児童の誰でもが、心地よい「居場所」と感じられる空間であるようにしていきたいと考える。



4. 学校は楽しい。

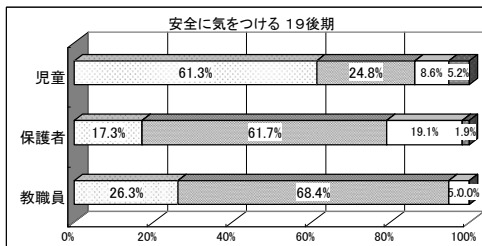
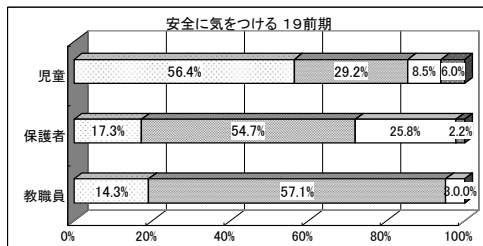
教職員の立場からは、「子どもたちが興味を持ち、主体的に活動する授業を進める」とする観点で捉えている。すなわち、児童が『楽しい』と感じるのは、授業がよくわかることが第一義と考える。児童の立場からは、『3』と同様に、児童の居場所が学校のどこかにあることが大切である。前期では、児童の約7パーセントが「楽しくない」と回答しているが、後期では4パーセントとなり、よい方向に進んでいると感じる。



5. 学校と家庭の連携がとれている。

学校は、保護者にどこまでも地域に対して、「学校たより」や「保健たより」、「給食たより」、「学年通信」などを通して、多くの情報を提供している。しかし、前期よりは改善されたとはいえ、児童の2割強が学校での様子をあまり家の人に伝えていない実態がある。子どもが家庭に帰ってから、親としゃべる時間が十分でないかもしれないが、親から積極的に働きかける環境作りが必要ではないかと考える。

加えて、家庭からの連絡に対しては、教職員が十分に真意を汲み取り、丁寧な対応が求められるのではないかと。



6. 安全を守る力がついている。

本校の取組の中心としている「安全・安心の学校づくり」が、徐々に浸透してきているように感じる。過去のデータはないが、安全に対する関心は、確実に高まっているのではないかと。しかし、中学年を中心に、児童の中には、自己の安全に無頓着な様子がある。日々の指導を大切に、意識を高めていきたい。また、地域においては「見守り隊」を編制し、日々見守っているが、あいさつする児童も増えてきているなど、活動が地に付いてきたと感じている。